

# 新型インフルエンザの正しい情報が伝わらない

先日、弊社のグループ農場で働く管理者の方で、新型インフルエンザと診断されたケースが発生しました。38度以上の高熱があったので病院(一般的な開業医院)の診察を受けたところ新型インフルエンザと診断されたものです。通常病院では下の図のようにインフルエンザの診断がなされております。もしもA型陽性とでた場合、新型インフルエンザか、通常のインフルエンザかどうかは、正式には大きな医療機関で精密な遺伝子検査をしないとわかりません。しかしあまりにも多数の人が感染をするため、急遽このような煩雑な診断は間に合わないで、いつの間にか打ち切られてしまっています。最終的には**発生前後の患者の仕事や動線、さらには昨今の伝播状況からA型陽性なら、明白に医者の個人的な判断で新型として判断してもよい、さらに極端な例では、A型が陰性でも診断しても構わないという現状でもあるのです**(下の図 参照)。

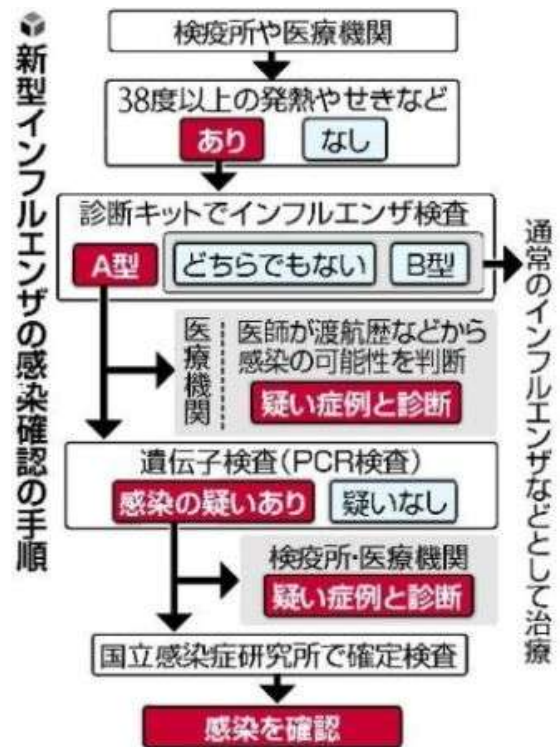
今回のケースでも、そのような状況のなかで、養豚場に勤務する患者を意識して新型インフルエンザと診断されたものと思われま。病院に勤めている医師の夫人から別途、農場の社長宛に「家族、農場の方々はいかがですか、さぞかし大変な状況なのではないかと心配し電話しました。」という意味不明の電話もあったようです。新型だからどうこうという事ではありませんが、豚インフルエンザとの関わりが拭えていないということに生産者は大変がっかりとさせられました。その後もPCRで確定されたとも考えられません。

我々生産者にとって豚の関わりがあるかどうかは非常に重大です。先日も朝日新聞で、「依然として新型の豚インフルエンザウィルスの発生が……」という表現が使われていました。現在のところ、人から豚へ感染する例は報告されていますが、養豚場の豚の中に新型インフルエンザが潜んでいるという見方は、インフルエンザの専門家でさえもしておりません。世界中で犯人探しが科学的に行なわれつつも確かな原因は依然闇の中です。もはや豚がどうこう言う話ではないのは歴然です。

一方豚で見られるインフルエンザは、一般に排菌期間が2~3日と短く、豚群の持つ免疫の多少にもよりますが、侵入時は一斉に豚舎が静まり返るといわれています。菌が場内の豚の誰かが持っているのか、外から新たに侵入するのかもはっきりとはわかっていません。しかし慢性的に農場内で長期に循環し続けること可能性は低いのではないかというのが一般的な見方なのです。こんな例を出せばお分かりでしょう。人でも常に流行期になると広がりますが、それまでの間、つまり非流行期、菌はどこでどうしているのでしょうか。人のインフルエンザでさえも謎なのです。

正しい診断法がないにもかかわらず状況証拠だけから例数が増えつつある現状はなんともしがたしいものがあります。一刻も早く国民への適切な通知と養豚関係者の心の安心を願うばかりです。

最後に、この農場の社員の方は、医者の指導もあり帰宅しないで家族と1週間別居したためか、すぐに回復され、元気に農場で働いておられると伺っております。家族も農場と一緒に働く同僚社員、豚でさえもちろん一切インフルエンザ症状は見られませんでした。しかし農場は大変不安になるものです。怪しきをくじくは時に有効である半面、あまりにも悲惨な結果を導くこともままあります。このような経験を農水省、厚労省にも問い合わせているところですが、農水省からは医療機関の関わりである以上、厚労省に問合せてくださいという、なんともつれない連絡で生産者としては大変残念な結果を受けました。厚労省は当然でしょうが、何の連絡もないままです。



アメリカ、WHOを初め当初豚インフルエンザと報道したことから多くの医者の中には依然としてそうした先入観を持っている方が大勢いることを農場は身を持って実感しました。実際に厚労省のインフルエンザのサイトを見ても不明点のままですし、ましてや豚インフルと新型インフルの違いについて、古い情報の羅列ばかりで正しい確定診断はおろか、情報の更新さえもされていない状況です。すでに人から人への感染になっていますので、豚など持ち出す必要はないのに正式な見解もないまま時間が過ぎていくのです。



にぎわいをみせる弊社のハム工房ぐろーばるの店内(9月13日)

豚肉の消費の陰りは微塵もない。

2009年10月 グローバルピッグファーム(株)